



# 皆様のお役に立てるよう 議員一丸となって全精力を傾注

益城町議会議長 稲田 忠則

新年を迎えるにあたり、町議会を代表いたしましたして、謹んでごあいさつを申し上げます。

熊本地震から2年と9か月。未だ仮設住宅等での生活を余儀なくされておられる方々、生活再建にたいへんな苦労をされておられる方々におかれましては、震災による傷がまだ癒えない中で、新年をお迎えのことと拝察いたします。

震災以降、町民の皆様のさまざまなお声掛け、また全国からの多くのご厚情、ご支援を原動力に一日も早い復旧・復興に向け、町議会も誠実に多くの課題に取り組んでまいりました。

まち並みに目を向けますと、被災した道路や水路の復旧とともに解体され更地となっていた所にも新しい住宅が次々と建ち始めました。また、県道熊本高森線4車線化の着工など、復興の足音も少しずつ確実に聞こえてきております。

昨年もまた、西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震など、甚大な被害をもたらした自然災害が発生しました。南海トラフ巨大地震の危険性も一層注目されている中、私どもは震度7を2度経験した町として、全国の自治体や議会からの行政視察を受け入れ、災害時の対応など、他市町村議会等との情報の共有や連携を図ってまいりました。

さて、昨年は決して暗い話ばかりではありませんでした。平昌冬季五輪では羽生結弦選手の連覇、女子選手のメダル

ラッシュなど、国民に興奮と大きな感動を与えてくれるニュースがたくさんありました。また、将棋の藤井聡太棋士やテニスの大坂なおみ選手など、若者たちの活躍が非常に目立つ年でもありました。

明るい未来をつくり上げていくのは若者たち、子どもたちです。被災した第5保育所が2月末には新築工事を終え、新しい園舎で卒園式が行われます。学校給食センターも4月の新年度から稼働します。子どもたちの成長を担う施設の再始動は非常に喜ばしいニュースです。

子どもたちの学び・体験の場をさらに充実させるために、今後はコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)などを通じて、学校と地域が一体となつて子どもたちを見守り、育んでいく仕組みづくりが必要となります。これは、地域社会の活性化にも必ずつながるものです。ぜひ町民総出で未来のスターを育てていきましょう。

地域社会の活性化は、高齢化、少子化、人口減少、地域のつながりの希薄化といった地域課題を解決する最も重要なテーマのひとつです。

益城町ではこれから、仮設住宅や災害公営住宅も含めた、子どもたちや高齢者、要配慮者への地域の見守り、また、緊急災害時における地域体制の確立を推進

めていく必要があります。それが、ひいては災害に強いまちづくりへとつながっていくと確信しております。

新年に目を向けると、消費税増税は町民にとっても非常に大きな負担になるものだと思います。町では、さまざまな負担増の中、今後はより一層厳しい財政運営が求められます。町議会といたしましても、今後の復興・発展のために、さまざまな分野で町民の皆様のご意見を拝聴し、町と連携して、国・県へ要望を続けていきながら、皆様のお役に立てるよう一丸となって全精力を傾ける所存です。

今年5月から新元号になります。町議会の任期は4月までとなりますが、任期まで精一杯職務を全うし、新議会でも町民の皆様とともにさらなる飛躍と発展を目指していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年が町民の皆様にとりまして、輝かしいものとなりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

